

相談支援事業所 相談に関する報告

(令和3年7月～9月)

課題に感じて いること	相談対応で見えてきたこと
・ 地域や関係機関との継続的なネットワークの構築 ・ 新たな仕組み作りや社会資源の開発	・ 多言語支援者が在籍する事業所の情報共有や支援者の育成・確保など、多文化共生の観点からも<u>多様なニーズに対応できるような情報共有ができる場や仕組み</u>が必要である。 ・ 本人や家族に問題意識は無いがさまざまな困難を抱えている場合、<u>地域の中で気付き相談機関に繋げてもらうためのネットワークの構築や仕組み</u>が必要である。 ・ 当事者の生活の全てを医療や福祉サービスで支えるのは困難である。継続した見守りなど、<u>地域で関わりを持てる繋がりや仕組み</u>が必要である。 ・ 支援センターなどの専門機関以外にも気軽に保護者・家族が相談できる場所など、<u>新たな社会資源の開発</u>が必要である。 ・ 社会資源の充実には、<u>個を支える地域づくり</u>のためには、フォーマル・インフォーマル双方の視点が欠かせない。



【現場レベルの事例を共有したり学びあう場作り・様々な視点を入れた支援体制への仕組み作り】

障がい・子育て・教育・医療・保健・介護・司法・経済・多文化などの多種多様なニーズに対して、専門分野を超えた支援者が実際に集まり事例を共有したり学びあう場を作ることが必要である。また、そこで出た課題についてどのような社会資源が必要か、フォーマル・インフォーマル双方の視点から資源開発・育成を図り、地域に根差した取り組みを推進していくことが必要である。